

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらいさぼーとmoana2(単位2)				公表日	令和8年4月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用人数に応じて活動空間を分け、過密を避けるための設定を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		規定基準以上の職員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		場所や1日のスケジュール等を見て分かるよう視覚支援を導入している。事業所の構造はバリアフリーではないため、階段や段差には声かけにて対応している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		生活と活動の空間を分ける事で、見通しを持って行動できるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて個別室を使用できる環境を整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		朝のミーティング時に情報共有の場を設け支援や業務改善に活かしている。不在の職員に対しては共有ノートで情報を共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎回の朝のミーティングにおいて職員の意見を把握しているため、日常的に意見交換の機会を設けている。	今後は意見の記録の振り返りを行うことで、継続的かつ具体的な改善につなげていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	現在、第三者による外部評価は行っていない。	・今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めた。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		半年に1度、家庭と事業所でアセスメントを実施し、ニーズや課題の聞き取りを行っている。家庭と事業所の両面から把握している点が強みになっている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		こどもの支援に関わる職員とともに評価や課題の検討を行っている。複数視点で検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別支援計画書に基づいた支援を実施している。	統一した支援を行う。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		国が示す5領域を用いてアセスメントを実施している。		
	16	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		担当が立案し、チームで検討・決定している。	今後は子どもの実態や意見をより反映できるように、検討過程の共有や振り返りを図り、さらに質の高いプログラム作りにつなげていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		5領域を取り入れ、活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	今後はこども達の発達や興味関心に応じて内容の幅をさらに広げ、より柔軟で充実したプログラム作りに努める。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		柔軟に活動形態を調整している。	活動ごとのねらいや効果を振り返りながら、支援の質を高めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎回の朝のミーティングで打ち合わせや内容、役割分担を確認し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後と翌日に振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々、記録をとり定期的にチームで記録の読み合わせや振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年の1回、チームでモニタリング会議と個別支援計画書の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて、行政と連携し、会議や支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて、保護者と本人（こども）移行先の小学校へ見学に行き、情報交換を行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて、保護者と本人（こども）移行先の小学校へ見学に行き、情報交換を行った。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		今年度は地域の小学生学童と夏祭りや運動会を企画・実施した。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		帰りの送迎時にこどもの様子を共有しながら、課題の共有理解を行っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		職員研修は実施しているが、保護者への案内は行っていない。今度は研修会の情報提供・参加案内を行い、家族支援の充実につなげる。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			送迎時に児童の日々の様子や変化について保護者へ伝えているが、定期的な面談は実施していないため、今後検討していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1	HUGにて活動概要や行事予定を発信している。	公開情報がどのツールで発信しているか、職員への周知を徹底する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画に基づき行っている。またヒヤリハットや事故報告書と照らし合わせ、内容の見直しや改善につなげている。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			安全計画を実施しているが、一部の家族に十分に伝わっていない状況があり、今後は連絡帳や掲示物、SNS等の複数の媒体を活用していくことを検討する
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット発生の翌日にミーティングを実施し、迅速な情報共有と初期対応の統一を図っている。また口頭だけでなく、記録として残すことで継続的な安全管理に努めている	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				